



キャンピングカーを活用して、子どもたちに居場所を届ける移動式駄菓子屋「子どもの居場所 くじらぐも」(代表・諸澤久美子さん)。ひたちなか市と周辺地域を巡回し、子どもから高齢者までが気軽に集い、世代や障がいの有無を超えて安心できる居場所づくりに取り組んでいる。

今回、水戸市の特別養護老人ホーム「ケアステーション藤が原」で年1回開催される「藤が原フェスティバル」の会場の一角に、くじらぐもの駄菓子屋が出店した。

「藤が原フェスティバル」は、施設利用者や家族、地域住民が交流するイベントで、会場にはたくさんの飲食ブースやステージイベントが催され、子どもからお年寄りまで多くの来場者でにぎわった。開会にあたり施設長の笹島さんからは「今年のテーマは『つながろう』です。地域の皆さんとの交流の機会にしたいと思います」とご挨拶。

イベントが始まると、子どもたちがキャンピングカーへ集まってくる。車内にはたくさんさんの駄菓子が並び、思い思いの商品をカゴに入れていく。今回で5回目の来店という中学生は、「家の近くに駄菓子屋がないので、ちょっとお菓子が食べたい時に、お店があるとうれしいです」と話す。諸澤さんと最近流行しているお菓子の話をすることもあるそうだ。

子どもたちは、店頭のくじ引きやスクラッチに挑戦し、当たりが出るたびに歓声が上がる。諸澤さんは「あと一回だけね」と子どもたちに声を掛け、お金を使い過ぎないように傍らで見守りながら、「学校はどう?」「最近どうしてる?」など何気ない会話を交わす。

ボランティアスタッフの大谷さんは、お子さんの保育園近くで駄菓子屋を見かけたことをきっかけに参加。この



日は小学生のお子さんと設営準備から受付まで担った。また、地元の藤が原地区に住むスタッフの鈴木さんは「親子が気軽に立ち寄って話ができるので、支援の手前のコミュニケーションの場になっていると思います」と話す。

くじらぐもの駄菓子屋は今回のイベントだけでなく、ケアステーション藤が原で毎月2回、定期的に開催している。施設長の笹島さんは、「駄菓子屋が来ると子どもたちが集まり、その様子を見て利用者の高齢者も自然と外へ出てきます。子どもたちと話をしたり、駄菓子屋をのぞいたりして、地域との交流につながっています」と温かく受け入れる。

くじらぐもの活動の原点には、諸澤さん自身の経験から生まれた「子ども居場所」への思いがあった。

諸澤さんは、小中学校で約15年間、障がいのある児童生徒を支援する仕事に携わってきた。その経験から、障がいの有無に関わらず、自然に関わり合える居場所が必要だと感じていた。また、自身の子どもが学校へ行き渋った経験があり、悩みを抱える子どもや保護者が安心して過ごせる場所の少なさも実感していた。

そこで、廃校を活用した居場所づくりを考えましたが実現には至らず、「居場所に来られない子どもがいるなら、自分が地域へ出向けばいい」と発想を転換した。トイレや水道などの設備が整い、託児にも対応できるキャンピングカーを活用することとした。一方で、移動式の居場所は前例がなく、なかなか理解が得られなかったが、それでも「届ける」居場所を目指して活動を始めた。

当初は移動式託児サービスを中心に取り組んでいたが、より多くの人が気軽に立ち寄れるよう、駄菓子屋を組み合



わせた。現在は公園や寺、高齢者施設、地域イベントなど、
 依頼を受けながらほぼ毎日のように各地を巡回している。
 「活動を見た方から『うちにも来てほしい』と声を掛けてい
 いただき、活動場所が広がってきた」と諸澤さんは話す。
 同会の「くじらぐも」の名前は、ひたひたなか市平磯地区に
 あるオブジェ「くじらの大ちゃん」と、小学校の国語教材「く
 じらぐも」にあやかり、みんなに親しまれる活動になってほ
 しいと願いを込めたものだ。
 駄菓子屋にきた子どもや保護者から相談を受ける機会も
 多い。不登校だった子どもが「駄菓子屋へ行きたい」という
 思いから保健室登校を始め、その後学校へ通えるようにな
 ったケースもあったという。
 活動を始めて約4年。諸澤さんは「これだけ多くの場所で
 活動を続けられていることが一番の成果です」と振り返る。
 地域で出会った人とのつながりが次の活動場所
 につながり、少しずつ支援の輪も広がってきた。
 「居場所とは建物ではなく、人とのつながりだ
 と思う」と実感しているそうだ。
 今後は、子ども自身が運営する「子ども駄菓
 子屋」や職場体験にも取り組みたい、と諸澤さ
 んは目標を持っている。駄菓子屋をきっかけに、
 子どもたちが地域で役割を担い、社会と関わる
 機会をつくりたいという思いがある。
 「移動式だからこそ届けられる居場所がある。
 これからも様々な地域で、子どもたちとつな
 がっていききたい」。くじらぐものキャンピング
 カーは、みんな大好きな駄菓子に乗せ、今日も
 誰かのもとへと向かう。

【連絡先】子どもの居場所 くじらぐも
 メール：kujiragumo2023@gmail.com